

児童一人一人の安全意識の向上と安全確保を目指して

～学校・家庭・地域・関係機関が協働した取組の充実～

出水市立東出水小学校
教諭 中尾 理恵子

1 主題設定の理由

本校は、出水市のほぼ中央に位置し、広瀬川、国道447号線沿いに立地している。校区は、東西に長く広がり、市役所・出水駅・消防署等や大型店舗、さらに市文化会館・陸上競技場とも隣接した政治・文化の中心地であるため、車や人の往来が多い。学校周辺には、狭く入り組んだ路地が多数あり、交通事故や不審者事案など身近に起こり得る環境にある。そのため、児童が安全意識を高め、自らの安全を確保できるようにするための取組を進めていく必要がある。

2 安全教育の実際

(1) 家庭・地域・関係機関との連携

ア 自転車乗りテスト

3年生以上の自転車保険に加入している児童を対象とし、PTA生活指導部主催で、毎年5月に実施している。

テストの際には、警察署や交通安全協会とも連携し、自転車の点検方法や安全な乗り方について指導していただいた後、PTA生活指導部員や学校職員も指導に加わりコース実車テストを行う。テスト合格者は、PTAで作成した合格証シールを自転車に貼ると、公道で自転車に乗ることができるようになっている。



【コース実車テスト】



【合格証シール】

イ 集団下校訓練・引き渡し訓練

PTAや自治会長、地域育成会の協力をいただき、地域ごとの集団下校訓練と緊急

時における保護者への引き渡し訓練を隔年で実施している。

集団下校訓練では、学校職員と地域の育成会の保護者との数名体制で各地域へ引率し、下校途中に児童と危険個所を確認することで、安全意識を高めている。

引き渡し訓練では、年度当初に保護者から提出してもらった「引き渡しカード」を利用し、引率者が児童を確実に保護者へ引き渡せるようにしている。



【集団下校訓練】



【引き渡し訓練】

ウ 不審者対応訓練

警察署や校区にある「子ども110番の家」の方々と協力し、毎年実施している。不審者が教室へ侵入した設定での避難訓練後、「子ども110番の家」への駆け込み訓練を行っている。実際に体育館舞台上に「子ども110番の家」を設置し、訓練を通して不審者に遭遇したときの対応を確認し、防犯意識の向上に努めている。



【駆け込み訓練】



【職員の不審者対応】

エ 校区安全マップの作成

交通安全、不審者、防災の3つの視点から、危険箇所を記した安全マップを作成している。

毎年、職員が4月の家庭訪問時に点検を実施し、保護者と児童が、



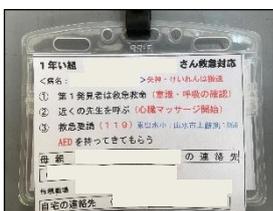
【校区安全マップ】

6月の家族参観時に徒歩で登下校しながら通学路の点検を行い、改訂している。

(2) 学校内における体制

ア 職員研修による緊急時対応訓練

本校には、病弱特別支援学級も設置されているため、校内研修で全職員による緊急時対応訓練を実施している。緊急時における役割分担、対応の流れ、関係機関との連携など、共有事項の確認や見直しを行っている。共有事項をまとめたものを職員ネームの裏に入れて携帯し、いつでも誰でも対応できるようにしている。



【職員ネームの裏】



【心肺蘇生訓練】

イ 各種防災訓練

毎年、消防署と連携して地震や火災などを想定した各種防災訓練を行っている。避難が必要な際に、児童が緊張感を持ち、自分事として考えて行動できるように、内容や方法を工夫しながら「予告なしの避難訓練」、「Jアラート避難行動訓練」を実施している。訓練の当日までには事前指導を行っており、「Jアラート避難行動訓練」では、児童がアラーム音を認識できるように実際の音を使用している。



【スライドで事前指導】

ウ 危険予知能力を高める安全指導

3分程度の動画を職員の共有フォルダに保存し、朝の会や帰りの会、学級活動や道徳科など、短い時間でも随時学級での指導を行えるようにしている。



【横断歩道の渡り方】

エ 児童による主体的な活動

保健委員会を中心に、熱中症予防対策を行っている。1日3回暑さ指数を計測し、児童玄関前に気温、湿度、暑さ指数などを示した熱中症警戒レベルを掲示したり、水分補給と併せて放送で予防を呼びかけたりした。児童が自ら掲示物や放送で熱中症警戒レベルを確認し、必要な行動がとれるよう、学級で指導している。



【暑さ指数の計測】



【警戒レベル掲示】

校内でのけがが多いという課題を受け、どこで、どのようなけがをしているかを調べ、校内安全マップの作成を行い、危険箇所での注意を呼びかけている。



【校内安全マップの作成】

3 成果と課題

(1) 成果

ア 安全教育に関する行事や指導を、家庭・地域・関係機関と連携しながら進めることで、児童が「守られている」という安心感をもつことにつながった。

イ 避難訓練や委員会活動での自主的活動、学級での安全指導を通して、児童の安全に対する意識が高まった。

(2) 課題

ア 児童がより安全に対する意識を高められるように、安全に関する行事の計画や学校の環境面などを見直す際は、児童目線の意見を取り入れていく。

イ 今後も各種訓練の内容を検討する際は、様々な状況を想定し、実効的な訓練になるようにする。